

令和8年8月13日

新規／

「カール・ヴァルザー展」開催記念シンポジウムを開催します

～東京・大阪での「カール・ヴァルザー展」開催を記念して、宮津との縁をたどる～

明治41年（1908）、ドイツ人作家ベルンハルト・ケラーマンとスイス人画家カール・ヴァルザーは宮津を訪れ、その風景や文化に魅了されました。帰国後、両氏は『日本散策記』『さっさ よ やっさ 日本のおどり』を刊行し、宮津の魅力をヨーロッパへ紹介しました。

本年、宮津市では、東京ステーションギャラリー、大阪中之島美術館における「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー展」の開催にあわせ、「ケラーマンとヴァルザーが愛した MIYAZU プログラム」を展開しています。本シンポジウムでは、展覧会の担当学芸員や研究者を迎え、ケラーマン、ヴァルザーが見た宮津の魅力を見直す機会とします。

ついては、開催告知と、当日の模様について取材をお願いいたします。

開催日

8月30日（日） 13時30分から16時30分まで（開場13時）

場 所

みやづ歴史の館 2階文化ホール（参加無料 定員280人）

内 容

講演1「ケラーマンとヴァルザーがみた明治の宮津」

講師：松田法子（京都府立大学准教授）

講演2「ヴァルザーの画業と評価 ―展覧会準備を通して―」

講師：富田 章（東京ステーションギャラリー館長）

パネルディスカッション「ケラーマン・ヴァルザーが愛した MIYAZU」

パネラー：松田法子、富田章、清原佐知子（大阪中之島美術館学芸員）

羽田野まどか（株式会社宮津町屋再生ネットワーク 代表）

徳田誠一郎（文人墨客の宿 清輝楼 第13代当主）

コーディネーター：水野昌美（株式会社キュレーターズ代表）

関連事業

・『さっさ よ やっさ を探して』（映像作品 全3本）特別上映会

日時：8月30日（日） 10時から12時まで

場所：みやづ歴史の館 2階文化ホール（入場無料・事前申込不要）

【担当者のコメント】

東京、大阪における展覧会開催の経緯や、ケラーマン、ヴァルザーが残した作品の意義、彼らが見た宮津の魅力を深掘します。是非、足を運んでください

お問い合わせ先

教育委員会事務局 / 社会教育課 / 文化財保護担当
TEL：0772-45-1642

—— ぼくは日本に滞在中、もつともすばらしい時をここで過ごした。この町について、自分の友人のこのように語りたい…。 ——

ベルンハルト・ケラーマン著『日本散策記』より



二人の西欧人が残したアートから、明治時代の宮津が鮮やかに甦る…

カール・ヴァルザー《歌舞伎の一場面（『壇浦兜軍記』より『阿古屋琴責』）》（部分）1908年 ゴットフリート・ケラー財団（新ビール美術館寄託） ※明治41年、宮津万年座（後の宮津劇場）での興行風景

講演 1

「ケラーマンとヴァルザーがみた明治の宮津」

松田法子 氏（京都府立大学 准教授）

講演 2

「ヴァルザーの画業と評価 - 展覧会準備を通して -」

富田章 氏（東京ステーションギャラリー 館長）

パネルディスカッション

「ケラーマン・ヴァルザーが愛したMIYAZU」

パネラー

松田法子 氏

富田章 氏

清原佐知子 氏（大阪中之島美術館 学芸員）

羽田野まどか 氏（株式会社宮津町家再生ネットワーク 代表）

徳田誠一郎 氏（文人墨客の宿 清輝楼 主人）

コーディネーター

水野昌美 氏（株式会社キュレイターズ 代表）

ケラーマンと ヴァルザーが 愛した MIYAZU

「カール・ヴァルザー展」開催記念シンポジウム

2026.8.30（日）

みやづ歴史の館文化ホール

13:30～16:30（開場13:00） 参加費：無料（事前申込不要 定員280人）

主催：宮津市・宮津市教育委員会 協力：株式会社キュレイターズ

問合先：宮津市教育委員会社会教育課（Tel 0772-45-1642 Email b-shinkou@city.miyazu.kyoto.jp）

同日・同会場で開催！

『さっさよ やっさを探して』

映像作品全3本

特別上映会

裏面参照 →

ケラーマンとヴァルザーが魅せられたMIYAZUの風情、その魅力とは？



明治41年(1908)、ジャポニズムに沸く欧州から、旅行記執筆のため来日したドイツ人作家、ベルンハルト・ケラーマンと、スイス人画家、カール・ヴァルザー。彼らは約4カ月間、日本に滞在し各地を訪ねますが、ここ宮津の町が最も気に入ったようで、多くの期間を宮津で過ごします。帰国後、ドイツで出版した「日本散策記」、「さっさよやっさ」の2冊の書籍では、ケラーマンは宮津の街並みや風俗、祭りの様子や芸妓の踊りなど、驚くほど精緻に記し、またヴァルザーは巧みな挿絵で彩を添えています。本シンポジウムでは、東京・大阪で開催の「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー展」を記念し、本展覧会の担当学芸員や研究者の皆様にご登壇いただき、近年スイスで再評価の機運が高まっているヴァルザーの魅力、また宮津での彼らの足跡を辿りながら、彼らが愛した明治期の宮津に思いを馳せるとともに、その価値をいかに後世に伝え、まちづくりにつなげていくべきか、参加者の皆様と考える場にしたいと思います。

「カール・ヴァルザー展」開催記念シンポジウム

ケラーマンとヴァルザーが愛したMIYAZU

13:30～16:30(開場13:00)
会場: みやづ歴史の館文化ホール

登壇者(敬称略、順不同)

富田 章

東京ステーションギャラリー
館長

慶應大学卒業、成城大学大学院修了。横浜そごう美術館、サントリーミュージアム[天保山]を経て現職。今回の「カール・ヴァルザー展」の企画構成を担当。専門はフランス、ベルギー、日本の近代美術。著書に『偽装された自画像』(祥伝社)、『印象派BOX』(講談社)、『ゴッホ作品集』(東京美術)など。

松田 法子

京都府立大学准教授

専門は建築史・都市史。宮津の近代における天橋立の海水浴場化、新浜・万年町遊廓の歴史、町並みの文化的景観などを研究。その中でカール・ヴァルザーとベルンハルト・ケラーマンの宮津滞在の調査も行ってきた。単著・共著に『絵はがきの別府』、『危機と都市』、『戦後空間史』、『渋谷の秘密』など。

清原 佐知子

大阪中之島美術館学芸員

大阪大学大学院文学研究科で美学とドイツ近代美術史を学ぶ。1995-1997年ベルリン自由大学美術史研究所に留学。近現代日本の版画、前衛芸術受容史などを専門とする。現在大阪中之島美術館で開催中の「カール・ヴァルザー展」担当学芸員。

羽田野 まどか

建築士
株式会社宮津町家
再生ネットワーク 代表

2012年に宮津町家再生ネットワークを設立。自ら再生した「桜山長屋」でのカフェ運営や大規模町家「ちしや」での複合シェアスペース運用等、市内外の古民家・空き家の保存再生と活用を通じたまちづくりに取り組む。今年4月「ちしや」でスイス人アーティストの滞在をサポート。

徳田 誠一郎

文人墨客の宿「清輝楼」
第13代当主
宮津市文化財保護審議会委員

2016年度に、ケラーマン著「さっさよやっさ」の現代語訳出版事業を実行委員会を立ち上げ実現した(翻訳:田中まり)。「清輝楼」は天橋立観光の奥座敷として、明治～昭和の時期、菊池寛ほか多くの文人墨客が逗留した、宮津城下を代表する老舗旅館。木造三階建ての旅館建築は国登録文化財。

水野 昌美

株式会社キュレイトーズ 代表
※司会・コーディネーター

本年日本初開催の「カール・ヴァルザー展」の事務局として、企画・運営に係る多くの業務を担う。同社は「開催する意義があると判断すればどんな展覧会でも積極的に取り組んでくれる稀有な存在」(富田館長談)として美術業界に知られる。また今回宮津市における本プログラム実施にも運営協力している。



アクセス

宮津市字鶴賀2164

お車で越しの方は、パーキングはままちをご利用ください。(5時間以内無料・徒歩約5分)

関連イベント

『さっさよやっさを探して』(映像作品 全3本) 特別上映会

協力: 京都府立大学松田研究室

京都府立大学松田法子准教授製作の、ヴァルザー&ケラーマンの宮津滞在を追った映像シリーズ、『さっさよやっさを探して』全3本の特別上映会を行います。

開催日: 2026年8月30日(日)

10:00～12:00(開場9:30)

場所: みやづ歴史の館文化ホール

入場無料・事前申込不要

上映時間等:

10:00～10:30 「茶屋町」編(2016年、28分)

10:40～11:22 「海と祭」編(2017年、42分)

11:30～12:00 「宮津と神話」編(2018年、30分)

「スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー展」

宮津サテライトパネル展

企画協力: 株式会社キュレイトーズ

本年、東京・大阪会場にて開催の「ヴァルザー展」のエッセンスを紹介するパネル展を開催します。

開催期間: 2026年9月5日(土)～9月27日(日)

10:00～20:00(月曜日は17:00まで)

会場: 浜町ギャラリー

(宮津阪急ビル(ミッブル)3階)

入場無料



宮津市歴史資料館 企画展示

「旅人が見た宮津・天橋立 —参詣そして近代観光地へ—」

旅人の視点を通し、ケラーマンとヴァルザーが魅せられた宮津の歴史文化、景観の魅力に迫ります。

開催期間: 2026年9月19日(土)～10月18日(日)

9:00～17:00

会場: 宮津市歴史資料館

(みやづ歴史の館4階)

入場無料



世界に先駆けて
初の回顧展

スイス絵画の異才
カール・ヴァルザー

大阪中之島美術館で開催中 2026.7.4～9.27



カール・ヴァルザー《人形の乳母車と少女》(部分) 1905年以前 新ビール美術館